

柔道ルネッサンス スピーチ

全国高校選手権大会(2006.3.21)

小嶋 新太

皆さん、こんにちは。只今、ご紹介いただきました、日本体育大学の小嶋です。

12年ぶりに、この全国選手権大会の試合会場に立たせていただき、大変光栄です。熱戦が展開される中ですが、少しお時間をいただき、お話しさせていただきたく思います。

現在、国際柔道連盟に加盟している国は、195ヶ国に上っています。いろいろな国の柔道があり、いろいろな考え方の中、私たちの伝統文化である柔道が行われています。私も試合等で外国の方々と接する機械を持たせていただきましたが、彼らは意外に礼儀正しくマナーが身に付いていることに驚かされます。私自身、今まで礼法が馴れ合いになって疎かだったことに気づき、恥ずかしい思いをしたこともありました。以前は、あまり意識したことはありませんでしたが、むしろ、外国に行ってその大切さを再認識させられました。

今年度、柔道ルネッサンスのキャッチフレーズ優秀賞の一つに「柔道で、世界に発信 日本の心」という言葉が選ばれました。現在の日本は、物質的に世界に誇れるものがありますが、形のない物の中にこそ伝えて行きたいものがあります。それは、日本の長い伝統の中で培われてきた礼の心だと思えます。情報化・グローバル化時代の今こそチャンスです。

皆さん！！柔道ルネッサンスのキャッチフレーズのように日本の心をもっともっと世界に発信していこうではありませんか。それには、私たち一人一人が、しっかりと礼法を理解し身につけることが必要です。私も、このことを忘れないように、実践して行きたいと思っています。

礼という漢字は、旧漢字で豊かさを示すと書きます。まさに世界の人々が心の豊かさを示せるような人間関係をつくれればいいなと願っています。それは、嘉納師範の「自他共栄」という大きな教えにつながるのではないのでしょうか。

今日は大切な時間にも関わらず、お話を聞きいただき有り難う御座います。